

CESH 版「執筆要領」(日本語版)

以下で翻訳するのは、ドイツ語版「CESH 版コンGRES発表用の執筆要項」(日本語版 2014 年 9 月 1 日)である。翻訳に当たっては、英語版も参考にした。

原稿(注と図を含む)の文字数は、全部で 4,000 語(若手研究者賞の場合は 6,000 語)を越えてはならない。投稿者はこの文字数を厳守しなければならない。この制限文字数を超える原稿は、投稿者に返却される。

原稿は、e-mail にファイルを添付して次に送付されたい。

khiko@mx6.kct.ne.jp

以下の規定を厳守されたい。

1. 文字種: タホマ (Tahoma), フォント: 12, 行間: 14 pt, 段落間: 6 pt のこと。
2. 固有名詞は、大文字にしてはならない。
3. 本文と注における省略形は、発表の専門領域と使用言語の慣例に従うこと。
4. 2 行以上の引用は、フォント 11, シングルスペース, 左右マージン 1 cm で作成すること。理解できない言語による長文の引用は、本文に原語を記載し、注において発表の言語に翻訳すること。
5. 注(フォント 10, シングルスペース)は、本文中に括弧書きしたり、同じ頁での脚注で記載しないこと。注には連続番号を付し、ワードプロセッサの注機能を利用して、本文の最後に記載すること。
6. 重要事項。文献の不必要な二重記載を避け、印刷費用の節約のために、本文の最後で注の後にアルファベット順による文献記載は不必要である。文献情報は、典拠が最初に言及される注で示すこと。同じ典拠が二回以上引用される場合は、以下のような短縮形とすること。即ち、著者/編者の名前(コロン): タイトルの最初の名詞(コンマ), 頁数(ピリオッド)。短縮形の記載に当たっては、著書(常にイタリック体)と論文(常に引用符)とを慎重に区別すること。出版地の後の出版社の記載は不必要である。

以下の規定を厳守されたい。特に、句読法を考慮されたい。これらの規定を厳守しない原稿は、返却される。

6. 1 著書; 注での最初の言及

著者姓名/編者姓名(コンマ), 名前(省略は不可)(コロン): フル・タイトルとサブ・タイトル(常にイタリック体で記載し、コロンで区切ること)(ピリオッド)。出版地(スペース)必要な場合には(スペースなしの上付)版数, 出版年(コンマ), 頁数。[参照, 例 2 :²1968]

例 1. Carter, John Marshall & Krüger, Arnd (eds.): *Ritual and Record: Sports Records and Quantification in Pre-Modern Societies*. Westport, Connecticut 1990. P.21.

→2 回目以降の注における短縮形: Carter & Krüger: *Ritual*, S.23.

2. McIntosh, Peter C.: *Physical Education in England since 1800*. London²1968, S.30.

→2 回目以降の注における短縮形: McIntosh: *Education*, S.35.

6. 2 論文(著書); 注での最初の言及

著者姓名 (コンマ), 名前 (省略は不可) (コロン): 「論文」のフル・タイトル (常に引用符で記載すること) (コンマ), in (コロン): [6.1 の記載と同様に続けること。論文の開始頁と終了頁の記載を忘れないこと] (コンマ), 引用頁。

例 Krüger, Arnd: “The Ritual in Modern Sport: A Sociobiological Approach“, in: Carter, John Marshall & Krüger Arnd (eds.): *Ritual and Record: Sports Records and Quantification in Pre-Modern Societies*. Westport, Connecticut 1990, 135-151. S.140.

→2 回目以上の注における短縮形: Krüger: “Ritual“, S.143.

6. 3 論文 (雑誌); 注での最初の言及

[in までは 6.2 と同様に記載すること] アラビア数字で雑誌の巻数 (スペース) イタリック体で雑誌のタイトル (スペース) 号数 (必要な場合はスペース) 括弧で発行年 (コンマ, スペース), 「論文」の開始頁と終了頁 (コンマ), 引用頁。

例 Joyce, Tony: “Canadian Sport and State Control: 1845-86“, in: 16 IJHS 1 (1999), 22-37, S.31.

→2 回目以降の注における短縮形: Joyce: “Sport“, S.34.

6. 4 論文 (学会報告): 注での最初の言及

[in までは 6.2 と同様に記載すること] 編者姓名 (コンマ), 名前 (省略は不可) (コロン): イタリック体で学会報告のフル・タイトル (コンマ), 会議場所 (コンマ), 会議期間 (ピリオッド)。出版地 (スペース) 出版年 (コンマ, スペース), 「論文」の開始頁と終了頁 (コンマ) 引用頁。

例 Vamplew, Wray: “Artefacts, Archives and Analysis: Sports Museums and Sport Historians“, in: Krüger, Arnd & Teja, Angela (eds.): *La commune Eredita dello Sport in Europa: Atti del 1° Seminario Europeo di Storia dello Sport*, Roma, 29 novembre all' 1 dicembre del 1996. Roma 1997, 43-48, S.45.

→2 回目以降の注における短縮形: Vamplew: “Artefacts“, S.47.

7. 原稿に写真や図そして表が含まれる場合には, 再生可能で鮮明なものを送付すること。出版許可が必要な場合には, 著作権は投稿者の責任において取得すること。投稿者は該当する図の挿入箇所を本文に指示し (例えば, >図挿入, あるいは >図1), 図の出典と説明を忘れないこと。図は必要不可欠な場合に限って挿入すること。写真・図・表は制限語数 (4000/8000 語) を超過してはならない。これらに関して, 追加スペースは提供されない。原稿の最後に, 注と図を含む正確な語数を記載すること (WORD COUNT または WÖRTER)。

8. 原稿では, アンダーラインも太字も大文字による強調も使用してはならない。イタリック体は, 著書と本文における強調とに関して使用しても良い。

9. 原稿を e-mail (アタッチメントファイルのみ) で送付する前に, 以下の CESH KONTROLL-LIST に従って, 原稿が CESH 版執筆要領に適切に従っているかどうか, 確認されたい。

日本語訳: 楠戸 一彦 (2014.9.1.)

CESH チェックリスト

原稿を e-mail(アタッチメントファイルのみ)で送付する前に、以下の CESH KONTROLL-LIST に従って、原稿が CESH 版執筆要領に適切に従っているかどうか、確認してください。

1. 本文
 - a ! 文字種：タホマ(Tahoma)
 - b ! フォント：12
 - c ! 行間：14 pt
2. 著者／編者の姓
 - a ! 大文字にしていない
3. 2行以上の引用
 - a ! フォント：11
 - b ! 行間：シングルスペース
 - c ! 左右マージン 1 cm
4. 注
 - a ! フォント：10
 - b ! 行間：シングルスペース
 - c ! 論文の最後
 - d ! 最初の言及における文献の完全データ
 - e ! 2回目以降の短縮形
 - f ! イタリック体での著書のフル・タイトル
 - g ! 引用符での論文フル・タイトル
 - h ! 出版社リスト掲載なし
 - i ! 省略なしでの名の記載
 - j ! 刊行年の前に上付で版数
 - k ! 注における引用頁
 - l ! 「論文」の開始頁と終了頁
 - m ! 雑誌の巻数
5. 写真, 図, 表
 - a ! 著作権の取得
 - b ! 本文における挿入箇所の指示
 - c ! 出典と説明
 - d ! 4000 語から 6000 語以内
6. レイアウト
 - a ! アンダーラインなし
 - b ! 太字なし
 - c ! 大文字なし
7. 語数
 - a ! 注と図などを含めて=_____語